松江エネルギー研究会

全国で唯一、県庁所在地に原子力発電所立地地域となる前に、市民の立場で改めて身近なエネルギーや原子力問題を考え、「いい」「悪い」という判断ではなく、「正確に知ろう」を目的に勉強会、講演会を中心に活動。　　設立：２００４年１０月１日

平成23年度(H23･4･1～H24･3. 31)
＝活動＝

８月　福島県現地視察

福島の現状を知るために、石原・福村二人で視察をしました。東京駅・銀座界隈のエネルギー事情と、福島産品の風評被害の状況を把握。福島県いわき市では富岡町商工会の方々と、佐藤晴美さんに被災状況を聞取りし、地震･津波･原子力災害と大変な思いをされている話を聞きました。その後いわき市の津波被害を視察。凄まじい被害状況に声も出ず自然の猛威驚愕。原発立入り禁止区域拠点のＪビレッジでは、物々しい警備に原発事故が現実だと改めて認識。郡山市ビッグパレットにて、富岡町役場の田中氏（現副町長）に被災当日・その後の避難所での生活、原子力発電所との共存について等と話を聞きました。郡山駅では浪江町出身の吉川裕子さんと打合せ中に、震度 5 強の地震に遭遇。新幹線は運行見合せなどで大変な思いをして帰路に着きました。

いわき市　津波被害

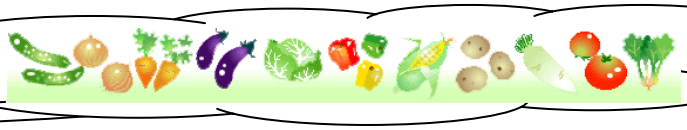
郡山ビッグパレット内派出所

６月　キャンドルナイト

温暖化防止と復興支援の「キャンドルナイトまつえ」に例年通り実行委員として参加。2000 個のキャンドルで描いた開府 400 年祭のキャラ「あっぱれくん」が日本地図を持って応援。ＣＯ２削減と復興を願った２時間で、大勢の観光客や市民に見て頂きました。

地震がきたら、
津波だ！逃げろ！

「一度は放射線や原子力について、勉強をしておこう！！」
　ｂｙ原発避難者からの伝言



９月～　大阪みちのくの会支援

福島県浪江町出身の吉川裕子さんが代表の東北から大阪へ被災しておられる 100 世帯 300 人の大阪みちのくの会への支援物資を、会員外からもご協力頂き支援をしました。ご協力ありがとうございました。（米･野菜･食品・服･靴･紙おむつ･タオル･食器･洗剤･布団･コタツ・扇風機・スタンド・餅つき機・現金等）

９月　福島視察報告会

８月に視察に行った福島の状況をスライドショーにて報告。復興ボランティアをした友人も交えながら語り合った。ニュースで見る状況とは違い、被災された方々の話を伝え、身近に感じてもらった。いざという時のために日頃から避難経路を始め、地域住民として何をしないといけないか考えさせられた。
原子力に関しては「放射線や原子力のことを、また発電所に一度は視察に行き、是非勉強をしておいて欲しい」と福島から被災された方々が話されていたので、会としても広く住民に企画を PR し、声がけをしていこうと話し合いました。

１０月　福島からの被災者報告会

福島県浪江町からの吉川裕子さんと、富岡町からの佐藤晴美さんから、被災状況の本音を聞きました。
市民向けにカラコロ広場で話をして頂きました。吉川さんは福島民話の語り部として浪江町の民話「歯形の栗」を福島弁で臨場感たっぷりに語り、一日も早い帰宅を祈りました。
吉川さん佐藤さんとも被災状況と、被災する時には現金と、金融の通帳は全国で利用できる郵便局がのちのち便利と報告して頂きました。被災された生の声を届けることで、少しでも福島を身近に感じて頂けた。
当日は山陰中央テレビに、山陰中央新報･朝日･読売･毎日･産経の新聞取材がありました。

福島県の地図を片手に・・・

１０月　澤田哲生東工大助教講演会

テレビで赤いめがねでお馴染みの澤田哲生先生に、「誰でもわかる放射線」の講演会をくにびきメッセで開催しました。放射線の基礎知識や、福島原発事故の現状などを分かりやすく解説。
放射能とは「放射線を出す能力」で、単位は「ベクレル」。私たちが口にする食べ物はもともと自然の放射性物質が含まれている。それを食することで私たちの体の中にも体重 60Ｋｇの人で 7000 ベクレルの放射性物質を持っている。放射能について事実を知れば怖くない。

情報を伝えるには、相手と同じ目線で。３歳と５歳のママです。

３月　大場恭子氏（金沢工業大学科学技術応用倫理研究所研究員）講演会

「福島原子力発電所の事故を受けて～放射線を知ろう～」がんばろう　ふくしま！と題して松江商工会議所で開催しました。
先生は、「日頃から地域･保育所保護者会に積極的に参加しているので、震災後に携帯に登録されているママ友に放射線や原子力の基礎知識を情報発信しても、信頼関係があるので信じてもらえた。同じ土俵に立つことが大切である。自然界にも沢山の放射線があり、チェリノブイリや福島市より、花崗岩の遺跡があるローマの方が放射線量は高い。内陸部にあるチェリノブイリでは大事故を起こした建物の廊下続きにある発電所は数年前まで稼動していた。事故そのものの違いから、拡散した物質の違い、気候、地形、国家体制、情報のあり方、事故に対する考え方、食生活特に海産物がない等と、福島との違いを明確にしながら、謙虚に学ぶ姿勢が必要。ペットボトルの水は安心と思っている人も多いが、カリウムの０，０117%は放射性が入っているように、放射線を正当に怖がってほしい。」

福島を身近に感じ、唯一県庁所在地立地の松江市民として正確に知らなければと強く思いましたが、今年度いろいろと企画しましたが、市民を巻き込むまでには至りませんでした。原発廃炉の大合唱の中、関心を持ってもらえる企画を検討したいと思います。　（By　石原　孝子）